

モモのせん孔細菌病の防除対策

令和元年8月
JAフルーツ山梨会
露地もも部会
営農指導課

今年については、昨年の台風や5月頃からの集中的な降雨、強風の影響で管内全域でせん孔細菌病が見られています。

せん孔細菌病は、結果枝、葉への被害の他に果実被害を伴い、大きく減収に繋がる深刻な病気です。

せん孔細菌病は、薬剤だけでは抑えきれないため耕種的防除と薬剤防除を徹底してください。

1. 収穫後の耕種的防除

せん孔細菌病は、薬剤だけでは防除が難しいため、まずは、耕種的防除として「枝病斑の剪除」、「発病葉の除去」を徹底する。

枝の枯れ込みは収穫後、早めに切除し、切除したものや発病した果実も放置せず必ず園外に持ち出し処分する。



枯れ枝は絶対に残さない。
薬剤散布前に必ず切除！



罹病した枝は、健全な芽を1芽以上
含めて剪除する！



罹病し枯れた枝は、出来るだけ健全な芽を1芽以上含めて剪除する！

2. 秋のせん孔細菌病の防除対策

越冬伝染源の密度を下げるため9月中旬から必ず3回ボルドー液を散布する。

「幸茜」「さくら」など収穫が遅い品種では、

収穫終了後直ちにボルドー液の散布を行う。

強風に伴う雨で広く拡散するため、台風の接近や前線に伴う雨の前に防除を行う。



秋季に落葉痕等から細菌が、侵入し感染するので、落葉前までの防除が重要。

○9月上旬からの防除体系（カイガラムシ類等の防除も含む）

散布時期	薬剤と調合量 (100%当たり薬量)	10a当たり 散布量	注意事項
9月上旬	スプラサイド水和剤 1,500倍 加用 アプロードエースフロアブル 1,000倍	500%	・隣接園に収穫前の果樹がある場合は飛散に注意する。 ・アプロードエースフロアブルは、スモモの隣接園では飛散に注意する。
約10日後			
9月中旬	ICボルドー412 30倍 (3.3kg) 又は 4-12式ボルドー液 (硫酸銅:400g 生石灰:1.2kg) 加用 スミチオン水和剤40・乳剤 1,000倍	500%	・隣接園に注意しながら必ず散布する。 ・葉害の発生する恐れがあるので高温時の散布はさける。 ・落葉痕からの感染を防ぐため台風襲来前に散布する。 ・スミチオンは、ネクタリンでは登録がないため、加用しない。
約14日後			
9月下旬	ICボルドー412 30倍 (3.3kg) 又は 4-12式ボルドー液 (硫酸銅:400g 生石灰:1.2kg)	500%	・隣接園に注意しながら必ず散布する。 ・住宅隣接園では、ムッシュボルドーDF 500倍(200g)加用クレフノン100倍(1kg)を用いる。ただし、葉害の発生するおそれがあるので高温時の散布はさける。
約14日後			
10月上旬	ICボルドー412 30倍 (3.3kg) 又は 4-12式ボルドー液 (硫酸銅:400g 生石灰:1.2kg)	500%	・住宅隣接園では、ムッシュボルドーDF 500倍(200g)加用クレフノン100倍(1kg)を用いる。ただし、葉害の発生するおそれがあるので高温時の散布はさける。

3. 秋から冬にかけての耕種的防除

罹病部は切除し必ず園外に持ち出し菌の密度低下に努める。チップパーで粉碎しない。

開花期頃から春型枝病斑が出現するため、剪定時には、枝病斑が見られない枝は通常より1、2割多く残す。

4. 春先の薬剤防除

初期感染を予防するため3月中下旬に必ず散布する。

散布時期	薬剤と調合量 (100%当たり薬量)	10a当たり 散布量	注意事項
3月中下旬 (花卉が見え始める頃まで)	ICボルドー412 30倍 (3.3kg) 又は 4-12式ボルドー液 (硫酸銅:400g 生石灰:1.2kg)	400%	<ul style="list-style-type: none"> この時期のボルドーは、初期感染の防止に有効である。 また、この時期のボルドーは、縮葉病の同時防除が可能である。 住宅隣接園では、ムッシュボルドーDF 500倍(200g)を用いる。

※ネクタリンでは、ICボルドー412かムッシュボルドーを用いる。

5. 春先の耕種的防除

春型枝病斑が出現するため、枝が黒ずみ芽が出てこない結果枝を徹底して剪除し必ず園外に持ち出す。



春型枝病斑



芽の枯死したところは、早急に切除する。絶対に残さない！



- ・樹液流動とともに潜伏している細菌の活動が活発となり、開花期から幼果期にかけて芽の付近を中心に、春型枝病斑（スプリングキャンカー）を形成する。
- ・病斑は初め赤色で、後に上下に広がり紫黒色となる。

6. 4月から収穫までの防除

発病した葉や枝から盛んに二次伝染を繰り返し、新梢には縦に割れた夏型枝病斑（サマーキャンカー）を形成するため、罹病部は見つけ次第切除し園外に持ち出すのと併せて薬剤散布による降雨前防除を徹底する。



春型枝病斑



・初期の病斑

葉の病斑



幼果の病斑



- ・雨や強風により枝病斑から新葉や果実に伝染し、発病する。
- ・風がなくても葉が濡れていれば細菌の感染は起こり、
葉では7～15日、果実では20～30日の潜伏期間を経て発病する。

・罹病果を摘果後、薬剤散布

モモの生育期から収穫前までの薬剤防除

4～5月 (落花直後から 1週間おきに 2～3回)	アグレプト液剤・水和剤 1,000倍 (100cc・100g) 又は マイコシールド 1,500倍 (66g)	400%	<ul style="list-style-type: none"> ・アグレプト剤は、収穫60日前まで2回以内、マイコシールドは収穫21日前まで5回以内とする。 ・アグレプト剤は無核果を生じるため、隣接のぶどうにかからないよう注意する。
6月	バリダシン液剤 500倍 (200cc) 又は デランフロアブル 1,000倍 (100cc)	500%	<ul style="list-style-type: none"> ・バリダシンとデランフロアブルは収穫7日前まで4回以内とする。